

ぼくは、コロナウイルスのせいで、三月から五月まで、休校になって、家にいた時に思ったことがあります。

それは、お母さんが毎日、朝からごはんを作ったり、洗たくをしたり、そうじをして、会社に行つて、また昼に帰つてきて、ぼくのごはんを作つてまた仕事に行つて帰つてきたら、洗たく物を取りこんで、たたみすぐに夕食の準備をします。そんな姿を見て、とても大変だなと思いました。毎日、お母さんは、つかれて、ストレスがたまっているようで、「早く学校が始まって、給食があればいいのになー」といつていました。ぼくは、家事を手伝いたいと思ったし、毎日こんだてを考えている母さんや給食を作っている人たちに、元気で、過ごせている事に「ありがとう」と思いました。

こんなふうに、世の中で、働いている人に支えられていることに、気付いて、感謝の気持ちがいってきました。

しらいわ りん た ろう
白岩 凜太郎さん

